

る。

祝辞 祝う——云う

主人 家——男性（少し上へさしあげる）

出版 印刷——書物

主任 責務——男性（女性）

首領 「親方」と同じ。

生涯 生れて——から（時の流れ）——死ぬ

——まで（終り）

小学校 指頭を上にした右手人差指を、

指頭を前方にさした左手の人差指と中指の二

指の間に、隙間を置いて挟さむ「小」の形を

つくる——学校

上機嫌 「機嫌」の(ウ)

昇給 「給金」を表わして、胸もとに引き

寄せた「金銭」の手を上へ顔の前辺りにあげ

る。

商業（商売商い）と同じ。

正午 顔を時計の面として、人差指を時



針、中指を分針として、この二指をびったりとつけ合わせて、鼻筋の上に置く。正午の時の位置。

証拠 「揭示」と同じ要領で表わす。明らかに見せられたものと云う意。

招集 ——招く集める

上手 右手掌で左手腕を下へ撫で降す。

正直 四指を集め合わせた両手を腹の上で

指頭で左右につけ合わせ、一方の手を下方

へ、他の方を上方へとまっすぐに離して行

く。心がまっすぐである意味。

証書 紙——印判——頂く

少年少女 (ウ) 指頭を上にした右手の人

差指を、左手の指頭を向にした中指と人差指

を広く開いてさし狭さむようにする（各指の間）間に間隔がある）即ち「小」の字を形どり——男性（又は女性）(何) 齡——低い（下に向けた掌を下へ降す）——男性（女性）
小心 「寛大」の手まねと反対、即ち、腹の上で両手の人差指と親指で円を形どったのを、その円を小さく縮める。

常人 (何) 變態者に対する有聴者（普通人）
左手指頭を上にした人差指を口もとから前にさし（出し物云う）、右手指頭を上はさした人差指を耳もとから右方へさし出す（聞える）この両手の運動は同時に行う。

(何) 一般の常人。普通——人々

小説 「作文」の(何)——話

醸造 酒（或は醤油）——造る

招待 掌を上向けた両手を右方斜め前にさし出し「さあ、どうぞ」とばかり、両手を引き寄せる。

上達 「上手」「うまい」の(何)の手まねで、右手で左手の腕を下へ撫で降す運動を徐々に行う。次第に上手になるの意。

冗談 五指を集めた両手を上下にして互の指頭でにつつき合わせる。

承知 (何) 承知した。「解った」の手まね(何) 承知している。「知っている」の手まね。

商店 商い——店

商人 商い——人々

娼婦 人差指の爪の上に隣りの中指の指頭をつけて、穴をつくったのを眼にもって行き、のぞき見るようにする。——女性、昔の遊廓で格子の間から又は風穴から娼婦が外をのぞいて、遊客を待っていたことから出来た手まねか。

勝負 指頭を上にした親指の左右両手を胸の前で対立させ、交互に上下にあげ降しする。